

平成 26 年度業務実績評価に係る論点整理（案）

◇ 基本的な考え方

年度評価実施要領における年度評価の方針及び第 1 回公立大学部会における各委員の発言内容を踏まえ、次のとおり整理した。

1 A 評価について

【A 評価→B 評価 No. 97】

業務実績報告書の記載内容、質疑及びヒアリングの過程で、年度計画に対応した取組を十分に実施しているとしても、その効果や達成度に明らかに疑問がある場合は A 以上の評価としない（B 以下とする）。

頁	No.	自己 評価	部会 検証	論点整理の内容
78	97	A	B	職員の法令遵守への意識向上を図るため、遵守すべきルールやモラル等についてとりまとめた冊子をホームページに掲載し、研修等での周知を行っているが、平成 26 年度において職員の規則違反による懲戒解雇処分案件が発生した。 一職員の行為とはいえ業務上での非違行為であり、コンプライアンス遵守に対する意識向上の効果が十分だったとは言えず、B 評価が相当。

◆意見交換における委員発言（主なものを要約）

委員名	発言要旨
谷山部会長	・報道が出たので、道民としては、本当に個人の問題なのか、教職員に対するコンプライアンスはどうなっているか疑問。

2 B 評価について

【B 評価→C 評価 : No. 90】

業務実績報告書の記載内容、質疑及びヒアリングの過程で、年度計画に対応した取組を実施したことを確認できない場合は C 評価とする。

頁	No.	自己 評価	部会 検証	論点整理の内容
75	90	B	C	札幌医科大学短期留学助成事業により、教員以外の研究者の海外短期研修に対する支援を実施する計画としているが、応募がなかったことや法人の事情から、事業を中止しており、主たる事業に及ぶ前段の準備行為だけでは、計画を実施したとは言えず C 評価が相当。

◆意見交換における委員発言（主なものを要約）

委員名	発言要旨
谷山部会長	人数が 0 になっていることについて、外部から見た場合は大きな疑問がある。十分に行われていないということだが、やらなかったことになるのではないかな。

3 その他論点整理

【No1.2】入試制度について

頁	No.	自己 評価	部会 検証	論点整理の内容
13	1	A	A	「北海道医療枠」の選抜方法の変更を行ったことにより、入試制度が複雑、難解になった印象を受けたが、札幌大教員が道内高校を訪問し入試制度に加え卒後のキャリア形成支援などについても分かりやすく丁寧に説明を行っていたことから、本計画については十分に実施していると評価できる。
14	2			

◆意見交換における委員発言（主なものを要約）

委員名	発言要旨
谷山部会長	入試制度について、大学は説明を丁寧にしているというが、なかなか理解できない。
田中委員	地域枠と特別枠、違いがよく分からない。そこから解決しないと混乱していく。

4 昨年の指摘事項について

- ・「自己点検・評価について」は業務実績報告書の内容について改善が見られた。
- ・「年度計画の設定について」は、目標達成の目安となる数値や実施すべき事項の設定などについては不十分な点もあることから、指摘事項として明記する。

◆意見交換における委員発言（主なものを要約）

委員名	発言要旨
谷山部会長	【自己点検・評価について】 報告評価の記載が去年までと比べると格段に情報量が増えて、非常に良かった。これまでは会議の回数とか、参加した学生の数とか、教員の数しか無かったが、非常に実態が見えてきた。重複しているところもあったが、このあたりは今後検討して頂く。
鈴木委員	【年度計画の設定について】 国立大学では、計画の提出にあたっては、数値目標を入れて、かなりハードルの高い数値目標を設定し、文科省に提出

《昨年度の指摘内容》

- (1) 自己点検・評価について
自己点検・評価に係る業務実績の各項目の記載において、表現に統一性がないほか、実施内容が明確でない事例が散見された。年度評価は、評価を通じて法人の業務運営状況を分かりやすく道民に示すことをその方針の一つとしており、このことを法人全体が認識した上で、業務実績報告書の作成を行う必要がある。また、各項目の自己点検・評価に当たっては、法人において業務運営の改善に資する観点から十分に検証を行い、その理由を明確にする必要がある。
- (2) 年度計画の設定について
法人において、前年度までに実施が決定され、当該年度にその項目を当然に履行することとなる業務を当該年度の取組計画とすることは適当ではないことから、中期目標・中期計画の達成につながるよう、適切な内容とする必要がある。また、年度計画の設定に当たっては、数値や決定すべき事項など、各項目において目標としている到達度が客観的に分かる記載とする必要がある。